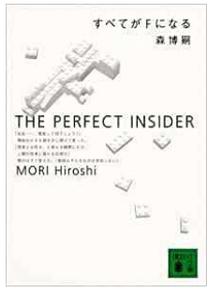
図書館だより 11月号

2022年11月11日発行
阿波高校図書委員会

第1回（?）阿波高マンガ投票も9日をもちまして
終了いたしました。
投票してくださった生徒の皆さん、
ありがとうございました。
あなたの選んだ1冊は、当選したでしょうか？
投票が終わっても、どんどん本を借りに来てくださいね。

○２１ＨＲ図書委員徳永のオススメ！

作品名：すべてがFになる
作　者：森　博嗣



ある大学の教授と学生たちが、偶然「天才」と言われる女性がいる島にキャンプに行きます。その時に起こった殺人事件を、大学の教授と1年生の学生が解決していくというミステリー物語です。
作中に起こる新たな殺人、コンピューターウイルスのような不可解な動きをする館内のプログラムなど、すべては「犯人」の手のひらの上で踊らされているんだ、と感じた一冊です。興味を持って頂けたら、ぜひご一読ください。

○２１ＨＲ図書委員武市のオススメ！

作品名：卵の緒
作　者：瀬尾まいこ

この本には２つ物語が入っています。１つ目は『卵の緒』で、血のつながりのない親子が、すれ違いながらも周りの人に支えられ、本当の親子の絆に気づいていく物語です。2つ目の『７'s blood』は異母姉妹が複雑な関係のまま、お互いに協力し合っていくうちに絆が深まるという、心温まる切ない物語です。
どちらの物語も、血のつながりだけでない、本当の家族のあり方を描いています。この本を読んだ後、今以上に家族を大切にしたいと思える作品です。

○２３ＨＲ図書委員南＆安友のオススメ！

作品名：ハチ公物語
作　者：岩貞るみこ

昔飼っていた犬をなくして以来、生きものを飼うことをやめていた大学教授の上野秀次郎夫妻のもとに、ある日秋田犬の子犬がやってきてきます。子犬はハチと名づけられ教授に自由奔放に育てられていきます。
愛する主人の帰宅を駅前で待つ秋田犬のハチ。ある日突然、主人が亡くなってしまいますが・・・毎日変わらず駅前で待ち続けるハチ。渋谷駅前でおなじみの“忠犬ハチ公像”。涙なしでは見られないと感じた一冊です。

○図書係うさもものオススメ！

『イラストで読む建築　日本の水族館五十三次』
編著　宮沢洋　Office　Bunga

皆さんは、水族館に何を見に行きますか？
愚問ですね。もちろん「魚」、水中生物ですよね。イルカを楽しみにいく人もいるでしょうし、大きな水族館ならジンベイザメとか。
しかし、この本の作者は、その水中生物を展示する「器」、建物の方をオススメしています。「水族館は、大人も子どもも楽しめる『建築』」と宮沢氏はいいます。イラストと写真で53件の水族館が紹介されています。建築に興味のある人、魚に興味のある人、イラストが好きな人、いろんな人にオススメです。阿波高図書館にはありませんが、地元の図書館で探して手にとってみてくださいね。
今秋、1・2年が訪れる水族館も掲載されています。ちょっとだけご紹介しましょう。

「国内最大級は見せ方もビック」と紹介されているのは、2年生が訪れる**「名古屋港水族館」**。音楽と水中照明を用いて幻想的に演出される「マイワシのトルネード」や「ウミガメ回遊水槽」がスケールの大きさを感じさせてくれるそう。約3000人を収容する大型モニターが設置された北館のメインプールでのイルカパフォーマンスや、シャチの公開トレーニングなど大きい水族館ならではの見所がたくさんあります。ちなみにイルカショーは「野外フェス級」と表現されていますので、きっとすごい迫力なんでしょう・・・。すり鉢状のプールの水中観覧席からはすごいスピードで泳ぐイルカが見られるそうです。また、シャチが見られるのは、日本ではここと鴨川シーワールドだけらしいので、ぜひ見てきてくださいね。
1年生が行くのは**「神戸市立須磨海浜水族園」**、愛称「**スマスイ**」。こちらは「水族館と震災の歴史を伝える」と紹介されています。和田岬水族館（1897年）を前身とする歴史のある水族館で、三角屋根が特徴です。1995年の阪神・淡路大震災を乗り越え、今もなお地元に愛される水族館です。現在はリニューアル中で本館のみの営業。2024年春に開館予定らしいので、今回遠足で行ったら次に行く時は新しいスマスイかな？
数字で表すと、名古屋港水族館の延べ面積は４万1841㎡、総水量は約２万7000トン。須磨海浜水族園は本館8274㎡、総水量3200トン。名古屋は大きいね。

来月は、22&24HRの図書委員さんが担当します！
それでは、12月号でお目にかかりましょう！